

るものである点に特徴があるとされている。

こうした教育の特色を踏まえた上で、学士課程における看護系人材養成の在り方について述べる。

＜学士課程における看護系人材養成の目指すもの＞

今後の学士課程における看護系人材養成においては、専門職として能力開発に努め、長い職業生活においてもあらゆる場で、あらゆる健康レベルの利用者のニーズに対応し、保健、医療、福祉等に貢献していくことのできる応用力のある国際性豊かな人材養成を目指す。これは、看護系大学においてはこれまでと同様に、看護専門職になるために共通して必要な基礎的知識や実践能力を教授することを意味している。

このため、学士課程では、看護を取り巻く幅広い知識体系を学び、社会や環境との関係において自己を理解するための素養や、創造的思考力を育成するための教養教育を前提に、健康の保持増進・疾病予防を含めた看護師等の基礎となる教育を充実していく必要がある。

これに加えて、医療の高度化や看護ニーズの多様化等に対応していくための教育を充実するとともに、専門職としての自発的な能力開発を継続するための能力や看護の向上に資する研究能力の基礎を育成することも重要である。

看護学基礎カリキュラムは、上記のような看護師等のいずれの職種にも共通して必要とされる能力の育成につながる内容を含むものとし、その内容は、看護師教育を包含するものである。また、就労後の新人研修へと効果的に接続することができる教育内容を考慮し、看護専門職としての発展につながるものである必要がある。

学生の資質が変化している中、改正された指定規則の教育内容を充足し、看護専門職の基盤となる資質を獲得させ、長い職業生活のスタートラインに立てる人材を育てるためには何が必要なのか、各大学が自大学の学生の状況や教育環境等を考慮しながら主体的に検討することが重要である。

ポリシーと授業科目の対応表

湘南鎌倉医療大学 看護学部

				ディプロマ・ポリシー								
区分	授業科目	単位数		演習☆ 実習★	配当 年次	保健師 必修	看護 教諭 必修	I. 人間として必要な他を 思いやる豊かな人間性、 幅広い教養、倫理観、生 活能力、マナーを身に付 けている	II. チーム医療に関心が高 く、実践現場において関 われる人々との十分なコ ミュニケーションが取 れ、多職種連携において 看護の専門的役割が果た せる	III. 修得した最新の看護学 の知識・技術をもとに科 学的根拠に基づいた診断 力・思考力をもって看護 実践ができる	IV. 地域特性を理解し、地 域における看護活動に積 極的にかかわり貢献でき る	V. グローバル化の進展を 視野にいれつつ看護専門 職として生涯にわたって 人間の尊厳を擁護する看 護を実践し、看護ケアの 質向上について探究・研 鑽している
		必修	選択									
人間の理解	哲学概論	1			1前			◎				
	生命倫理	2			2前			○				
	多文化理解		2		1後			○				
	文化人類学		1		1後			○				
	基礎心理学		1		1前			○				
	医学概論	1			1前			○				
	キャリア発達論	1			1後							◎
コミュニケーションの方法	コミュニケーション入門		1	☆	1前			○		◎		
	国語表現法	1		☆	1前			○				
	英語Ⅰ：基礎英語	1			1前				○			
	英語Ⅱ：オーラル英語	1		☆	1後				○			
	英語Ⅲ：医療英語	1			2前				○			
科学的探究	基礎ゼミナールⅠ	1			1前			◎				○
	基礎ゼミナールⅡ	1		☆	1後			◎		○		
	情報リテラシー入門	1		☆	1前			○				
	情報リテラシー応用	1		☆	1後			○				◎
	生命科学		1		1後			◎				
	統計学		1	☆	1前			○				○
社会と文化	鎌倉の文化と歴史	1			1前			◎			○	
	法律と人権	1			1後			○				
	日本国憲法		2		1後		○	○				
	社会福祉学	1			2前			○				
	社会学		1		1後			◎				
	日本の近代・現代史		1		1後			○				
	芸術と文化	1		☆	1後			◎				
	医療と経済		1		2前	○		○				
	世界の医療		1		2前			○				
	健康と環境		1		1後	○		○		◎		
	体験学習		1	★	1・2・3・4 前			◎		○		
健康スポーツ	運動とリクリエーションA		1	★	1前		○	○				
	運動とリクリエーションB		1	★	1後		○	○				
人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	2			1前					○		
	形態機能学Ⅱ	2			1前					○		
	生化学	1			1後					○		
	病原微生物学と感染	2			1後					○		
健康障害と回復	疾病治療論Ⅰ	2			2前					○		
	疾病治療論Ⅱ	2			2前					○		
	疾病治療論Ⅲ	2			2後					○		
	病理学	1			2前					○		
	薬理学	2			2前					○		
	臨床栄養学	2			1前			◎		○		
	臨床心理学	1			1後			◎		○		
	チームケア論	2			4後			◎			○	
	リハビリテーション概論	1			2前					○		
健康支援と 社会システム	公衆衛生学	1			2前					○		
	公衆衛生看護学概論	2			2後					○	◎	
	保健福祉行政論	2			2後			○				
	保健統計学	2			1後					○		◎
疫学	2			2後					◎		○	

区分	授業科目	単位数		演習☆ 実習★	配当 年次	保健師 必修	養護 教諭 必修	I. 人間として必要な他を 思いやる豊かな人間性、 幅広い教養、倫理観、生 活能力、マナーを身に付 けている	II. チーム医療に関心が高 く、実践現場において関 われる人々との十分なコ ミュニケーションが取 れ、多職種連携において 看護の専門的役割が果た せる	III. 修得した最新の看護学 の知識・技術をもとに科 学的根拠に基づいた診断 力・思考力をもって看護 実践ができる	IV. 地域特性を理解し、地 域における看護活動に積 極的にかかわり貢献でき る	V. グローバル化の進展を 視野にいれつつ看護専門 職として生涯にわたって 人間の尊厳を擁護する看 護を実践し、看護ケアの 質向上について探究・研 究している	
		必修	選択										
領域別 科目	看護学原論	2			1前			○		◎			
	基礎看護学援助論Ⅰ	2		☆	1前				○	◎			
	基礎看護学援助論Ⅱ	2		☆	1前				○	◎			
	基礎看護学援助論Ⅲ	2		☆	1後					◎			
	基礎看護学実習Ⅰ	1		★	1前			◎	○				
	基礎看護学実習Ⅱ	2		★	2前				○	◎			
	看護理論・看護過程	1		☆	1後					○			
	看護倫理	2			2後			○		◎			
	成人看護学概論	2			2前				○	◎	○		
	成人看護学援助論Ⅰ	2		☆	2後				○	◎			
	成人看護学援助論Ⅱ	2		☆	2後				○	◎			
	成人看護学実習Ⅰ	3		★	3通			○	○	◎			
	成人看護学実習Ⅱ	3		★	3通			○	○	◎			
	老年看護学概論	1			2前				○	◎	○		
	老年看護学援助論Ⅰ	2		☆	2後				○	◎			
	老年看護学援助論Ⅱ	1		☆	3前				○	◎			
	老年看護学実習Ⅰ	2		★	3通			○	○	◎			
	老年看護学実習Ⅱ	2		★	3通			○	○	◎	○		
	母性看護学概論	1			2前					◎	○		
	母性看護学援助論Ⅰ	2		☆	2後				○	◎			
	母性看護学援助論Ⅱ	1		☆	3前				○	◎			
	母性看護学実習	2		★	3通			○	○	◎			
	小児看護学概論	1			2前					◎			
	小児看護学援助論Ⅰ	2		☆	2後				○	◎			
	小児看護学援助論Ⅱ	1		☆	3前				○	◎	○		
	小児看護学実習	2		★	3通			○	○	◎			
	精神看護学概論	1			2前					◎	○		
	精神看護学援助論Ⅰ	2		☆	2後				○	◎			
	精神看護学援助論Ⅱ	1		☆	3前				○	◎			
	精神看護学実習	2		★	3通			○		◎			
	統合 科目	在宅看護学概論	1			2前					◎		
		在宅看護学援助論Ⅰ	2		☆	2後					◎		
		在宅看護学援助論Ⅱ	2		☆	3前					○	◎	
		在宅看護学実習Ⅰ	1		★	4前			○	○	○	◎	
		在宅看護学実習Ⅱ	1		★	4前			○	○	◎	○	
		看護研究概論	1			3前					◎		○
看護研究方法論		2		☆	4通					○		◎	
看護管理			1		4後					○			
災害看護		1			4前					◎	○		
救急看護			1		4後					○			
国際保健			1		4後	○					○	◎	
統合実習		2		★	4前			○	○	◎		○	
フィジカルアセスメントの実践		1		☆	4前				○	◎			
医療安全			1		4後					○			
看護教育学			1		4前					○		○	
先端医療と看護			1		4前					○			
クリティカルケア看護			1		4前					○			
リハビリテーション看護		1		4前				○	○				
感染症と看護		1		4前					○	○			
島嶼看護	2			4前				○	○	◎	○		

区分	授業科目	単位数		演習★ 実習★	配当 年次	保健師 必修	養護 教諭 必修	I. 人間として必要な他を 思いやる豊かな人間性、 幅広い教養、倫理観、生 活能力、マナーを身につ けている	II. チーム医療に関心が高 く、実践現場において関 われる人々との十分なコ ミュニケーションが取 れ、多職種連携において 看護の専門的役割が果た せる	III. 修得した最新の看護学 の知識・技術をもとに科 学的根拠に基づいた診断 力・思考力をもって看護 実践ができる	IV. 地域特性を理解し、地 域における看護活動に積 極的にかかわり貢献でき る	V. グローバル化の進展を 視野にいれつつ看護専門 職として生涯にわたって 人間の尊厳を擁護する看 護を實踐し、看護ケアの 質向上について探究・研 鑽していきける
		必修	選択									
保健師 課程	公衆衛生看護学方法論Ⅰ		2	☆	3前	○				◎	○	
	公衆衛生看護学方法論Ⅱ		2	☆	4前	○			○	◎	○	
	公衆衛生看護学方法論Ⅲ		1	☆	4前	○				◎	○	
	公衆衛生看護学実習Ⅰ		3	★	4通	○		○		◎	○	
	公衆衛生看護学実習Ⅱ		2	★	4前	○		○		◎		